



connect *shell* コマンド

- [connect adapter](#) : コマンドリスト (2 ページ)
- [connect cime](#) : コマンドリスト (7 ページ)
- [connect fxos](#) : コマンドリスト (11 ページ)
- [connect local-mgmt](#) : コマンドリスト (27 ページ)
- [connect module](#) : コマンドリスト (34 ページ)

connect adapter : コマンドリスト

スーパーバイザ **connect adapter** コマンドを使用して特定のアダプタのコマンドシェルに接続すると、そのシェルで次のコマンドを使用できます。**connect adapter** コマンドの詳細については、[connect adapter](#)を参照してください。



注目 これらのコマンドは、Cisco TACの監視下で仮想ネットワークアダプタをトラブルシューティングする場合にのみ使用してください。

アダプタ コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトはデフォルトコマンドから変更されます。adapter n/n/n というアプライアンスに割り当てた名前に変更されます。この場合、n/n/nは、接続用に入力したアダプタのシャーシ/サーバID の組み合わせです。

アダプタ モードを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例では、アダプタ コマンドシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect adapter 1/2/1
adapter 1/2/1 # help
Available commands:
  connect          - Connect to remote debug shell
  exit             - Exit from subshell
  help            - List available commands
  history         - Show command history
  show-fwlist     - Show firmware versions on the adapter
  show-identity   - Show adapter identity
  show-phyinfo    - Show adapter phy info
  show-systemstatus - Show adapter status
adapter 1/2/1 # exit
firepower#
```

表 1: アダプタのプライマリ コマンドシェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
connect	デバッグ シェルに接続します。次の表に示すコマンドにアクセスできます。
exit	アダプタ コマンド シェルを終了します。
help	このシェルで利用可能なコマンドをリストします。
history	このシェルの入力後に発行されたコマンドのリストを表示します。

コマンド	その他の情報
show-fwlist	アダプタのファームウェアバージョンを表示します。
show-identity	アダプタの ID を表示します
show-phyinfo	アダプタの物理的情報を表示します
show-systemstatus	アダプタのステータスを表示します

デバッグ サブシェルで利用可能なコマンドは次のとおりです。アダプタのプライマリ コマンドシェルで **connect** コマンドを入力してアクセスします。



- (注) シェルのデバッグサブシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトが `adapter n/n/n` プロンプトから `adapter n/n/n (top):n` に変わります。(top): は現在アダプタ コマンドシェルの上位サブシェルであること、*n* はデバッグセッションに表示されるコマンドの行数を表します。

デバッグ サブシェルを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例は、アダプタのデバッグサブシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示しています。

```
adapter 1/2/1 # connect
No entry for terminal type "dumb";
using dumb terminal settings.
adapter 1/2/1 (top):1# help
Available commands:
  attach-fls      - Attach to fls
  attach-mcp     - Attach to mcp
  estat          - Run fc performance monitor
  exit           - Exit from subshell
  help           - List available commands
  history        - Show command history
  phy-read       - Read PHY register
  show-acltab    - Show ACL table
  show-fru       - Show FRU contents
  show-fwdtab   - Show forwarding table
  show-log       - Show system log
  show-macstats  - Show MAC statistics
  show-pcisw     - Show PCIE switch status
adapter 1/2/1 (top):2# exit
adapter 1/2/1 #
```

表 2:アダプタ デバッグ サブシェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
attach-fls	アダプタのファブリック ログインサービスに接続します。次の表に示すコマンドにアクセスできます。
attach-mcp	マスター制御プログラムに接続します。多くのデバッグ情報コマンドを使用できます。リストを表示するには、 help コマンドを使用します。 ここでも、これらのコマンドは Cisco TAC のガイダンスでのみ使用します。
estat	ファイバチャネルパフォーマンス モニタを起動します。
exit	このサブシェルを終了します。
help	このサブシェルで利用可能なコマンドをリストします。
history	このサブシェルの入力後に発行されたコマンドのリストを表示します。
phy-read	PHY レジスタを読み込みます
show-acltab	ACL テーブルを表示します
show-fru	FRU の内容を表示します
show-fwddb	転送テーブルを表示します
show-log	システム ログを表示します
show-macstats	MAC 統計情報を表示します
show-pcisw	PCIE スイッチ ステータスを表示します

次のコマンドはファブリック ログインサービス (FLS) サブシェルで使用できます。アダプタのデバッグ シェルの **attach-fls** コマンドを入力してアクセスします。



- (注) アダプタのデバッグ サブシェルの FLS サブシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトが `adapter n/n/n (top):n` から `adapter n/n/n (fls):n` に変わります。(fls): は現在のデバッグ サブシェルの FLS サブシェルを表し、n はこの FLS セッションで表示されるコマンドの行数を表します。

FLS サブシェルを終了するには、**exit** を入力します。デバッグ サブシェルに戻ります。

例

次の例は、デバッグサブシェルから FLS サブシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示しています。

```

adapter 1/2/1 # connect
No entry for terminal type "dumb";
using dumb terminal settings.
adapter 1/2/1 (top):1# attach-fls
No entry for terminal type "dumb";
using dumb terminal settings.
adapter 1/2/1 (fls):1# help
Available commands:
    d - dumps the contents of the last fw request
    exit - Exit from subshell
    fwactive - retrieve active fcpu exchanges
    fwcqs - retrieves fcpu cq information
    fwexch - retrieves fcpu exchange data
    fwlif - retrieves fcpu lif data
    fwnvic - retrieves fcpu vnic data
    help - List available commands
    history - Show command history
    lif - Show lif information
    login - Show login information pertaining to vnic
    lunlist - Show Nameserver and Report LUN's response information for vnic
    lunmap - Show lunmap information pertaining to vnic
    vnic - Show vnic information

adapter 1/2/1 (fls):2# exit
adapter 1/2/1 (top):2#

```

表 3: FLS サブシェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
d	最後のファームウェア要求の内容をダンプします。
exit	FLS サブシェルを終了します。
fwactive	アクティブな fcpu 交換を取得します
fwcqs	fcpu cq 情報を取得します
fwexch	fcpu 交換データを取得します
fwlif	fcpu lif データを取得します
fwnvic	fcpu vnic データを取得します
help	利用可能なコマンドをリストします
history	コマンド履歴を表示します

コマンド	その他の情報
lif	lif 情報を表示します
login	vnic に関するログイン情報を表示します
lunlist	vnic のネームサーバとレポート LUN の応答情報を表示します
lunmap	vnic に関連する lunmap 情報を表示します
vnic	vnic 情報を表示します

connect cimc : コマンドリスト

connect cimc スーパーバイザ コマンドを使用して特定のモジュールの CIMC ファームウェア デバッグユーティリティに接続すると、そのシェルで次のコマンドを使用できます。**connect cimc** コマンドの詳細については、[connect cimc](#)を参照してください。

このユーティリティにより、リアルタイムのCIMCデバッグ情報を表示できるコマンドを使用して、読み取り専用シェルにアクセスできます。これらのコマンドは、主にCIMC問題のトラブルシューティングに使用されます。アラーム、システムイベントログ、オンボードの障害、および電源制御が表示されます。



-
- (注) CIMC コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。[xxx] というアプライアンスに割り当てた名前です。この場合、xxx は入力した最後のコマンドです。次の例を参照してください。
-

CIMC シェルを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例では、CIMC モードに接続し、利用可能なコマンドをリストする方法を示します。

```
firepower# connect cimc 1/1
Trying 127.5.1.1...
Connected to 127.5.1.1.
Escape character is '^]'.

CIMC Debug Firmware Utility Shell [ support ]
[ help ]# help

-----
                Debug Firmware Utility
-----
Command List
-----
alarms
cores
dimmb1
exit
i2cstats
images
mctools
memory
messages
mrcout
network
obfl
post
power
programmables
sensors
sel
fru
```

```

tasks
top
update
users
version
cert
sldp
help
help [COMMAND]

```

Notes:
"enter Key" will execute last command
"COMMAND ?" will execute help for that command

```

[ help ]# power
OP:[ status ]
Power-State:          [ on ]
Master-State:         [ Master ]
VDD-Power-Good:      [ active ]
Power-On-Fail:        [ inactive ]
Power-Ctrl-Lock:      [ unlocked ]
Power-System-Status: [ Good ]
Front-Panel Power Button: [ Disabled ]
Front-Panel Reset Button: [ Disabled ]
Source of Last Power Change: [ Software - "mcserver" ]
OP-CCODE:[ Success ]
[ power ]# exit
Connection closed by foreign host.
firepower#

```

表 4: CIMC デバッグ シェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
alarms	StatusLEDの現在の状態、およびアラームに含まれているセンサー（存在する場合）を表示します。 アラーム レベル： <ul style="list-style-type: none"> 1 : OK（緑色の点灯） 2 : メモリの初期化（緑色の点滅） 3 : 中程度の障害（オレンジ色の点灯） 4 : 重大な障害（オレンジ色の点滅）
cores	コア ダンプ ディレクトリをリストします。
exit	CIMC サブシェルを終了します。
fru	すべての現場交換可能ユニット（FRU）デバイス情報をリストします。

コマンド	その他の情報
help [COMMAND]	コマンド help を入力するだけで、利用可能なすべてのコマンドがリストされます。 help cmd_name を入力すると、 <i>cmd_name</i> ? コマンドのヘルプ情報が表示されます。
i2cstats	I ² C コントローラレジスタ情報、ドライバカウンタ、マルチプライマリ デバッグ トレース データを表示します。
images	ソフトウェアのイメージバージョンおよびステータス情報を表示します。
mctools	現在の MCtools の状態情報 (ソケットおよび共有ファイルのキャッシュ サイズ情報) を表示します。
memory	メモリおよび負荷の統計情報を表示します。
messages	messages [dump follow tail] dump : /var/log/messages ファイルをダンプします follow : /var/log/messages ファイルをテールおよびフォローします tail : 最後の 100 個のメッセージをダンプします
mezz1fru	mezz カード 1 FRU 情報を表示します
mezz2fru	mezz カード 2 FRU 情報を表示します
mrkout	MrcOut*.txt をダンプします
network	ネットワーク ステータスをリアルタイムで表示します ネットワーク情報をダンプします
obfl	OBFL (オンボード障害ログ) をダンプします dump : OBFL をダンプします follow : OBFL をテールおよびフォローします tail : 最後の 100 個のメッセージをダンプします
post	BIOS Post 情報をダンプします
power	電源ステータスをリアルタイムで表示します ブレードの電源ステータスをダンプします
programmables	ボードでプログラム可能なバージョンをダンプします

コマンド	その他の情報
sensors	すべてのセンサーをリアルタイムで表示します sensors [all power temp fault pres led] all : すべてのセンサーをダンプします (デフォルト) power : 電源センサーのみをダンプします temp : 温度センサーのみをダンプします fault : 障害センサーのみをダンプします pres : プレゼンス センサーのみをダンプします led : LED センサーのみをダンプします
sel	ブレード SEL 情報 (システム イベント ログ) を表示します
sldp	Cisco CIMC 相互作用のデバッグ このコマンドは、ユーザおよびシスコのサポート担当者の支援を受けて相互作用のデバッグ認証を実行します。
tasks	実行中タスクの情報をダンプします
top	上位プロセス モニタリングを実行します
update	現在のファームウェアの更新ステータス
users	IPMI ユーザをダンプします
version	バージョン情報を取得します

connect fxos : コマンドリスト

connect fxos スーパーバイザ コマンドを使用してスイッチング ファブリックの FXOS CLI シェルに接続すると、このシェルで次のコマンドを使用できます。**connect fxos** コマンドの詳細については、[connect adapter](#)を参照してください。



- (注) FXOS コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。(fxos) が付加されたデフォルトプロンプトというアプライアンスに割り当てられた名前です。次の例を参照してください。

FXOS シェルを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例では、FXOS コマンドシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect fxos
firepower(fxos)# ?
clear          Reset functions
cli            CLI commands
debug          Debugging functions
debug-filter   Enable filtering for debugging functions
ethanalyzer    Configure cisco packet analyzer
no             Negate a command or set its defaults
ntp            NTP configuration
show           Show running system information
system        System management commands
terminal      Set terminal line parameters
test          Test command
undebug       Disable Debugging functions (See also debug)
end           Go to exec mode
exit          Exit from command interpreter
pop           Pop mode from stack or restore from name
push          Push current mode to stack or save it under name
where         Shows the cli context you are in

firepower(fxos)# exit
firepower#
```

表 5:スイッチングファブリックの **FXOS** シェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
clear	リセット機能 counters : カウンタをクリアします logging : ログ情報情報をクリアします mac : MAC
cli	CLI コマンド var : 変数を定義します
debug	デバッグ機能。次の表を参照してください
debug-filter	デバッグ機能のフィルタリングを有効にします ip : IP イベント ipv6 : IPv6 イベント pktmgr : Pm debug-filter routing : ルーティング イベント
ethanalyzer	シスコ パケット アナライザを設定します local : Sup へのフレームのローカル キャプチャを開始します
no	コマンドを無効にするか、またはデフォルト値を設定します debug : デバッグ機能 debug-filter : デバッグ機能のフィルタリングを有効にします ethanalyzer : シスコ パケット アナライザを設定します terminal : ターミナル ライン パラメータを設定します test : テスト コマンド
ntp	NTP 設定 sync-retry : 設定済みサーバの同期化を再試行します
show	実行中システムの情報を表示します。次の表を参照してください

コマンド	その他の情報
system	<p>システム管理コマンド</p> <p>hap-reset : ha 障害でローカルまたはリモート sup のリセットを有効にします</p> <p>heartbeat : ハートビートを有効にします</p> <p>no : コマンドを無効にするか、コマンドのデフォルト値を設定します</p>
terminal	<p>端末回線パラメータを設定します。次の表を参照してください</p>
test	<p>テスト コマンド</p> <p>aaa : Aaa 認証</p> <p>eltn : eltn 情報を表示します</p> <p>forwarding : Fib 情報</p> <p>hardware : テスト ハードウェア パラメータ</p> <p>otv</p>
undebug	<p>デバッグ機能を無効にします (デバッグも参照します)</p> <p>all : すべてのデバッグを無効にします</p> <p>icmpv6 : ICMPv6 デバッグ コマンド</p> <p>ip : IP イベント</p> <p>ipv6 : IPv6 イベント</p> <p>l2 : レイヤ 2</p> <p>l3vm : L3VM 情報をデバッグします</p> <p>pktmgr : パケット マネージャ デバッグ/トンネル情報</p> <p>rpm : ルート ポリシー マネージャ (RPM)</p> <p>sockets : ソケット</p> <p>system : システム コンポーネントのデバッグを有効にします</p>
end	<p>EXEC モードに移行します</p>
exit	<p>コマンド インタープリタを終了します</p>
pop	<p>スタックからモードをポップするか、名前から復元します</p> <p>name : 名前 (任意)</p>
push	<p>現在のモードをスタックにプッシュするか、名前で保存します</p> <p>name : 名前 (任意)</p>

コマンド	その他の情報
where	どの CLI コンテキストにいるかを表示します detail : 各エントリを別々の行に表示します (任意)

表 6: FXOS コマンド シェルで利用可能な *debug*、*show*、*terminal* コマンド

コマンド	その他の情報
debug	

コマンド	その他の情報
	デバッグ機能 aaa : aaa のデバッグを有効にします aclcomp : aclcomp デバッグを設定します aclog : aclog デバッグを設定します aclmgr : aclmgr デバッグを設定します afm : afm デバッグを設定します assoc : 元の ID と変換後の ID の関連付け bcm-usd : BCM USD bootvar : bootvar デバッグを有効にします callhome : Callhome のデバッグを有効にします cdp : CDP デバッグを設定します cert-enroll : cert enroll daemon のデバッグを設定します cfs : CFS のデバッグを有効にします cli : cli をデバッグします cli : cli サーバをデバッグします clk_mgr : clk_mgr デバッグを設定します copp : copp デバッグを設定します core : コア デーモン デバッグを有効にします csm : csm デバッグを有効にします device-alias : デバイスエイリアス配信サービスのデバッグを設定します dstats : 差分統計情報デバッグを設定します eltm : eltm デバッグを設定します ethpc : ethpc デバッグを設定します ethpm : ethpm デバッグを設定します evmc : イベント マネージャ クライアント デバッグ fc-mac : fcp 情報をデバッグします fc2 : FC2 デバッグを設定します fc2d : fc2d デバッグを設定します fcdomain : fcdomain デバッグを有効にします fcfwd : fcfwd デバッグを有効にします

コマンド	その他の情報
	<p>fcns : ネーム サーバをデバッグします</p> <p>fcoe_klm : FCOE_KLM デバッグを設定します</p> <p>fcpc : fcpc デバッグを設定します</p> <p>fcs : ファブリック設定サーバのデバッグを設定します</p> <p>fdmi : fdmi デバッグを設定します</p> <p>fex : FEX プロセスの cli をデバッグします</p> <p>fex : fex デバッグを設定します</p> <p>flogi : flogi デバッグを設定します</p> <p>fm : 機能マネージャのデバッグを設定します</p> <p>fspf : FSPF デバッグを設定します</p> <p>hardware : ハードウェア、カーネルロード可能なモジュールパラメータをデバッグします</p> <p>icmpv6 : ICMPv6 デバッグ コマンド</p> <p>idehsd : Idehsd ハンドラ デバッグを設定します</p> <p>im : im デバッグを設定します</p> <p>ip : IP イベント</p> <p>ipconf : ipconf デバッグを設定します</p> <p>ipfib : ipfib デバッグを設定します</p> <p>ipqos : IP QoS Manager のデバッグを設定します</p> <p>ipv6 : IPv6 イベント</p> <p>klm : カーネルロード可能なモジュールパラメータをデバッグします</p> <p>l2 : レイヤ 2</p> <p>l3vm : L3VM 情報をデバッグします</p> <p>lACP : lACP デバッグを設定します</p> <p>ldap : ldap のデバッグを設定します</p> <p>ledmgr : LED マネージャのデバッグを設定します</p> <p>license : ライセンスのデバッグ有効にします</p> <p>lldp : lldp デバッグを設定します</p> <p>logfile : ログファイルへのデバッグの直接出力</p> <p>logging : ロギングまたは syslogd デバッグを設定します</p> <p>m2rib : m2rib デバッグを設定します</p>

コマンド	その他の情報
	<p>mcec : MCEC デバッグを設定します</p> <p>mcm : mcm デバッグを設定します</p> <p>mfdm : mfdm デバッグを設定します</p> <p>monitor : イーサネット SPAN セッションを設定します</p> <p>mcp : mcp デバッグを設定します</p> <p>mvsh : MVSH サーバのデバッグ</p> <p>nf : nf デバッグを設定します</p> <p>nohms : nohms デバッグを設定します</p> <p>npacl : NPAACL 機能を設定します</p> <p>nsmgr : nsmgr デバッグを設定します</p> <p>ntp : NTP モジュールをデバッグします</p> <p>obfl : obfl デバッグを設定します</p> <p>pfm : pfm デバッグを設定します</p> <p>pfstat : pfstat デバッグを設定します</p> <p>pktmgr : パケット マネージャのデバッグ/トンネル情報</p> <p>platform : プラットフォーム デバッグを設定します</p> <p>platform : プラットフォーム内部情報</p> <p>platform : プラットフォーム</p> <p>plog : plog デバッグを設定します</p> <p>pltfm_config : pltfm_config デバッグを設定します</p> <p>plugin : プラグイン デバッグを設定します</p> <p>port : ポート デバッグを設定します</p> <p>port-channel : port-channel デバッグを設定します</p> <p>port-profile : port-profile マネージャのデバッグを有効にします</p> <p>port-resources : prm デバッグを設定します</p> <p>port-security : ポートセキュリティ関連コマンド</p> <p>private-vlan : プライベート VLAN のデバッグ フラグを設定します</p> <p>process-sap : デバッグ対象プロセスの SAP</p> <p>provision : プロビジョニング デバッグを設定します</p> <p>psshelper : Psshelper デバッグ</p>

コマンド	その他の情報
	<p>psshelper_gsvc : Psshelper デバッグ</p> <p>ptplc : ptplc デバッグを設定します</p> <p>qd : qd の情報を表示します</p> <p>radius : radius デーモンのデバッグを設定します</p> <p>res_mgr : res_mgr デバッグを設定します</p> <p>rib : rib デバッグを設定します</p> <p>rlir : RLIR デバッグを設定します</p> <p>rpm : ルート ポリシー マネージャ (RPM)</p> <p>rscn : RSCN デバッグを設定します</p> <p>sal : sal デバッグを設定します</p> <p>san-port-channel : san-port-channel デバッグを設定します</p> <p>scsi-target : scsi ターゲット デーモン デバッグを設定します</p> <p>security : セキュリティのデバッグを設定します</p> <p>session-mgr : セッション マネージャのデバッグを有効にします</p> <p>snm : snm デバッグを設定します</p> <p>snmp : snmp-server デバッグを設定します</p> <p>sockets : ソケット</p> <p>spm : spm デバッグを設定します</p> <p>statsclient : 統計情報</p> <p>system : システム コンポーネントのデバッグを有効にします</p> <p>system : システムをデバッグします</p> <p>tacacs+ : TACACS+ のデバッグを設定します</p> <p>track : トラック デバッグを設定します</p> <p>transceiver : FC トランシーバー デバッグ コマンド</p> <p>tunnel : トンネル デバッグを設定します</p> <p>udld : udld デバッグを設定します</p> <p>(注) 単方向リンク検出 (UDLD) はFXOSではサポートされていません。UDLD への参照を無視します。</p> <p>ufdm : ufdm デバッグを設定します</p> <p>vim : vim デバッグを設定します</p>

コマンド	その他の情報
	vlan : vlan マネージャのデバッグ フラグを設定します vmm : vmm デバッグを設定します vms : vms デバッグを設定します vsan : VSAN マネージャのデバッグを有効にします willesden : willesden デバッグを設定します wwn : WWN マネージャのデバッグを設定します xml : XML エージェント zone : ゾーン サーバのデバッグ コマンド zschk : zschk デバッグを設定します

コマンド	その他の情報
show	

コマンド	その他の情報
	<p>実行中のシステム情報を表示します</p> <p>aaa : aaa 情報を表示します</p> <p>access-lists : アクセス リストを表示します</p> <p>accounting : アカウント設定を表示します</p> <p>banner : 現在の motd バナー メッセージを表示します</p> <p>boot : Bootvar 変数を表示します</p> <p>callhome : callhome 情報を表示します</p> <p>cdp : Cisco Discovery Protocol 情報を表示します</p> <p>cfs : CFS Show コマンドハンドラ</p> <p>class-map : クラス マップを表示します</p> <p>cli : CLI 情報を表示します</p> <p>clock : 現在の日付を表示します</p> <p>cluster-state : クラスタ情報を表示します</p> <p>configuration : 設定セッションの情報を表示します</p> <p>copyright : 著作権情報</p> <p>debug : デバッグ フラグを表示します</p> <p>device-alias : デバイス エイリアス配信サービスの情報を表示します</p> <p>diagnostic : 診断コマンド</p> <p>ecmp-groups : すべての ECMP グループを表示します</p> <p>environment : システム環境情報</p> <p>fc2 : fc2 のテーブルと統計情報を表示します</p> <p>fc2d : fc2d の情報を表示します</p> <p>fcalias : Fcalias show コマンド</p> <p>fcdomain : fcdomain 情報を表示します</p> <p>fcdroplateny : スイッチまたはネットワークの遅延を表示します</p> <p>fcflow : fcflow 情報を表示します</p> <p>fcid-allocation : fcid-allocation リストの情報を表示します</p> <p>fcns : ネーム サーバ テーブルを表示します</p> <p>fcroute : FC ルートを表示します</p> <p>fcs : ファブリック設定サーバ情報を表示します</p>

コマンド	その他の情報
	fctimer : ファイバ チャネル タイマーを表示します fdmi : fdmi 情報を表示します flogi : FLOGI の情報を表示します fp : Fp fspf : FSPF の情報を表示します hardware : ハードウェア情報を表示します hostname : システムのホスト名を表示します hosts : DNS の情報を表示します in-order-guarantee : 順序どおりの配信保証設定を表示します incompatibility : 互換性のない設定を表示します install : 2つのイメージ間のソフトウェア インストールの影響を表示します interface : インターフェイスのステータスおよび情報を表示します inventory : 物理インベントリを表示します ip : IP 情報を表示します ip : IP 情報 ipmc-groups : すべての IPMC グループを表示します ipv6 : IPv6 情報を表示します klm : カーネル モジュール情報を表示します l2-class-id : L2 クラス ID 割り当て l2-table : すべての L2 エントリを表示します lACP : LACP 情報を表示します ldap-server : LDAP 設定情報を表示します line : 行設定を表示します lldp : lldp の情報を表示します loadbalancing : 特定のフローまたは交換のユニキャストロードバランシングを表示します locator-led : デバイスのロケータの LED ステータスを表示します logging : ロギングの設定およびログファイルの内容を表示します mac : MAC module : モジュール情報を表示します

コマンド	その他の情報
	<p>monitor : イーサネット SPAN 情報を表示します</p> <p>msh : Msp コマンド</p> <p>nsm : ネットワーク セグメント マネージャの情報を表示します</p> <p>ntp : NTP 情報を表示します</p> <p>phy-bypass : ハードウェア バイパス</p> <p>platform : Platform Manager で受信したイベントのリストを表示します</p> <p>policy-map : ポリシー マップを表示します</p> <p>port : ポート情報を表示します</p> <p>port-channel : ポートチャネル情報を表示します</p> <p>port-profile : ポートプロファイルを表示します</p> <p>port-security : ポートセキュリティ関連コマンド</p> <p>queuing : インターフェイス キューイングの情報を表示します</p> <p>radius-server : RADIUS 設定情報を表示します</p> <p>redundancy : システムの冗長性ステータスを表示します</p> <p>resource : VDC のリソース設定を表示します</p> <p>rlir : RLIR 情報を表示します</p> <p>rmon : RMON 統計情報を表示します</p> <p>role : ロール設定を表示します</p> <p>routing : ルーティング情報を表示します</p> <p>routing-context : 現在のルーティング コンテキストを表示します</p> <p>rscn : RSCN 情報を表示します</p> <p>running-config : 現在実行されている設定</p> <p>san-port-channel : ポートチャネル情報を表示します</p> <p>scsi-target : 検出された scsi ターゲット情報を表示します</p> <p>snmp : snmp 情報を表示します</p> <p>sprom : SPROM の内容</p> <p>ssh : SSH 情報を表示します</p> <p>startup-config : 現在のスタートアップ コンフィギュレーション</p> <p>svs : svcs 情報を表示します</p> <p>switchname : システムのホスト名を表示します</p>

コマンド	その他の情報
	<p>system : システム関連の show コマンド</p> <p>tacacs-server : TACACS+ 設定情報を表示します</p> <p>tech-support : トラブルシューティングの情報を収集します</p> <p>telnet : telnet サーバ設定を表示します</p> <p>terminal : 端末設定パラメータを表示します</p> <p>topology : 接続されたスイッチの情報を表示します</p> <p>track : トラッキング情報</p> <p>trunk : トランク情報を表示します</p> <p>udld : UDLD プロトコル</p> <p>(注) 単方向リンク検出 (UDLD) はFXOS ではサポートされていません。UDLD への参照を無視します。</p> <p>user-account : ユーザ情報を表示します</p> <p>users : システムにログインしている現在のユーザを表示します</p> <p>vdc : 仮想デバイス コンテキストを表示します</p> <p>version : ソフトウェア バージョンを表示します</p> <p>vifs : 仮想インターフェイス</p> <p>vlan : Vlan コマンド</p> <p>vms : Vms コマンド</p> <p>vmware : Vmware 関連</p> <p>vrf : VRF 情報を表示します</p> <p>vsan : vsan 情報を表示します</p> <p>wwn : wwn 情報を表示します</p> <p>xml : XML エージェント</p> <p>zone : ゾーン show コマンド</p> <p>zoneset : ゾーンセット show コマンド</p>

コマンド	その他の情報
terminal	<p>端末回線のパラメータを設定します</p> <p>alias : エイリアスを表示します (引数のない場合)。「exec」エイリアスを作成します (非永続)。永続的なエイリアスは config モードです。「cli alias」を参照してください。</p> <p>color : プロンプト (最後のコマンドが ok の場合は緑、エラーの場合は赤)、コマンドライン (青)、出力 (デフォルトの色) の色付けを有効にします</p> <p>dont-ask : 「確認してください」という質問は表示されません。代わりにデフォルトの回答を使用します</p> <p>edit-mode : コマンドラインのエディションキー (vi または emacs、emacs がデフォルト) を設定します</p> <p>event-manager : イベント マネージャ cli イベント</p> <p>history : 端末履歴プロパティを設定します</p> <p>length : 画面の行数を設定します</p> <p>monitor : Syslog 出力を現在の端末行にコピーします</p> <p>no : コマンドを無効にするか、コマンドのデフォルト値を設定します</p> <p>output : show コマンド出力のフォーマット方法</p> <p>prompt : プロンプトの表示方法を設定します</p> <p>redirection-mode : リダイレクションモードを設定します</p> <p>session-timeout : セッションタイムアウトを設定します</p> <p>sticky-mode : 現在のモードでのみ一致するコマンドを検索します</p> <p>terminal-type : 端末タイプを設定します</p> <p>time : 変数に現在の時刻を保存します</p> <p>tree-update : メイン解析ツリーを更新します</p> <p>verify-only : コマンドを確認するだけで実行はしません</p> <p>width : 表示端末の幅を設定します</p>

connect local-mgmt : コマンドリスト

スーパーバイザ **connect local-mgmt** コマンドを使用してローカル管理シェルに接続すると、そのシェルで次のコマンドを使用できます。**connect local-mgmt** コマンドの詳細については、[connect adapter](#)を参照してください。

このシェルでは、ファイルのコピー、ファブリック インターコネクットの再起動、ping および traceroute コマンドの実行など、ファブリック インターコネクットで操作を実行できます。その中でもトラブルシューティング ファイルの生成が最も重要です。



- (注) ローカル管理コマンドシェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。(local-mgmt)が付加されたデフォルトプロンプトというアプライアンスに割り当てられた名前です。次の例を参照してください。

ローカル管理モードを終了するには、**exit** と入力します。

例

次の例では、ローカル管理コマンドシェルに接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# ?
cd                Change current directory
clear             Clear managed objects
cluster          Cluster mode
connect          Connect to Another CLI
copy             Copy a file
cp              Copy a file
delete           Delete managed objects
dir              Show content of dir
enable           Enable
end              Go to exec mode
erase            Erase
erase-log-config Erase the mgmt logging config file
exit             Exit from command interpreter
fips             FIPS compliance
ls               Show content of dir
mgmt-port        Management Port
mkdir            Create a directory
move             Move a file
mv              Move a file
ping            Test network reachability
ping6           Test IPv6 network reachability
pwd             Print current directory
reboot          Reboots Fabric Interconnect
restore-check   Check if in restore mode
rm              Remove a file
rmdir           Remove a directory
run-script      Run a script
show            Show system information
shutdown        Shutdown
```

```

ssh                SSH to another system
tail-mgmt-log      tail mgmt log file
telnet             Telnet to another system
terminal          Terminal
top               Go to the top mode
traceroute        Traceroute to destination
traceroute6       Traceroute to IPv6 destination
verify           Verify Application Image

firepower(local-mgmt)# exit
firepower#

```

表 7: ローカル管理シェルで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
cd	現在のディレクトリを変更します usbdrive : ファイル URI volatile : ファイル URI workspace : ファイル URI clear : 管理対象オブジェクトをクリアします sshkey : ホスト公開 SSH キー
cluster	Cluster mode force : ローカル ファブリック インターコネクトを強制的にプライマリーに変更します lead : 従属ファブリック インターコネクトをプライマリーにします
connect	別の CLI に接続します adapter : メザニン アダプタ cimc : Cisco Integrated Management Controller fxos : FXOS CLI に接続します local-mgmt : ローカル管理 CLI に接続します module : セキュリティ モジュール コンソール

コマンド	その他の情報
copy	ファイルをコピーします ftp : ソース ファイル URI scp : ソース ファイル URI sftp : ソース ファイル URI tftp : ソース ファイル URI usbdrive : ソース ファイル URI volatile : ソース ファイル URI workspace : ソース ファイル URI
cp	ファイルをコピーします ftp : ソース ファイル URI scp : ソース ファイル URI sftp : ソース ファイル URI tftp : ソース ファイル URI usbdrive : ソース ファイル URI volatile : ソース ファイル URI workspace : ソース ファイル URI
delete file	管理対象オブジェクトを削除します usbdrive : ソース ファイル URI volatile : ソース ファイル URI workspace : ソース ファイル URI
dir	dir のコンテンツを表示します order (任意) : 時間別にファイルを並べます usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
enable cluster	クラスタ モードを有効にします a.b.c.d : クラスタ IPv4 アドレス ipv6 : IPv6 クラスタ モード
end	EXEC モードに移行します

コマンド	その他の情報
erase	削除 configuration : システム設定
erase-log-config	管理ロギング設定ファイルを消去します
exit	コマンドインタプリタを終了します
fips	FIPS の準拠性 fault-test : FIPS 障害テストを実行します self-test : 要求に応じて FIPS セルフテストを実行します
ls	dir のコンテンツを表示します order (任意) : 時間別にファイルを並べます usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
mgmt-port	管理ポート no-shut (任意) 管理ポート アップ shut (任意) : 管理ポート ダウン
mkdir	ディレクトリの作成 usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
move	ファイルを移動します usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
mv	ファイルを移動します usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
ping	remote_host : ホスト名または IP アドレス (最小サイズ 0、最大サイズ 510)

コマンド	その他の情報
ping6	ネットワーク到達可能性をテストします IPv6 ネットワーク到達可能性をテストします remote_host : ホスト名またはIPアドレス (最小サイズ0、最大サイズ510)
pwd	現在のディレクトリを印刷します
reboot	ファブリック インターコネクトをリブートします
	復元モードの場合は確認します
rm	ファイルの削除 usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
rmdir	ディレクトリを削除します usbdrive : (任意) ファイル URI volatile : (任意) ファイル URI workspace : (任意) ファイル URI
run-script	スクリプトを実行します workspace : 実行するスクリプトの名前

コマンド	その他の情報
show	<p>システム情報を表示します</p> <p>cli : CLI 情報</p> <p>clock : クロック</p> <p>file : ファイル コマンド</p> <p>license : ライセンス情報を表示します</p> <p>mgmt-ip-debug : IP デバッグ情報</p> <p>mgmt-port : 管理ポート</p> <p>open-network-ports : オープン ネットワーク ポートを表示します</p> <p>pmon : Pmon</p> <p>processes : プロセス</p> <p>sel : システム イベント ログ</p> <p>software : ソフトウェア</p> <p>sshkey : Sshkey</p> <p>tech-support : テクニカル サポート</p>
shutdown	シャットダウン
ssh	<p>別のシステムに SSH 接続します</p> <p>remote_system : ホスト名または ユーザ@ユーザ名 (最小サイズ 0、最大サイズ 510) を入力します</p>
tail-mgmt-log	<p>管理ログ ファイルの末尾を表示します</p> <p>module : モジュール名 (最小サイズ 0、最大サイズ 510)</p>
telnet	<p>別のシステムに Telnet 接続します</p> <p>remote_host : ホスト名または IP アドレス (最小サイズ 0、最大サイズ 510)</p>
terminal	<p>端末回線のパラメータを設定します</p> <p>length : 画面の行数を設定します</p> <p>width : 表示端末の幅を設定します</p>
top	上位モードに移行します
traceroute	<p>宛先にトレースルートします</p> <p>remote_host : ホスト名または IP アドレス (最小サイズ 0、最大サイズ 510)</p>

コマンド	その他の情報
traceroute6	IPv6 宛先にトレースルートします remote_host : ホスト名または IP アドレス (最小サイズ 0、最大サイズ 510)
verify signature	アプリケーションイメージを検証します bootflash : イメージファイル名 usbdrive : イメージファイル名 volatile : イメージファイル名 workspace : イメージファイル名



(注) **show processes** と **show system resources** CLI を同時に使用すると、CPU 使用率の値に違いがあることがわかります。CPU 使用率の値は、各 CLI がデフォルトで使用する反復回数と間隔により、反復によるサンプリング後に出力を要約するために異なります。

connect module : コマンドリスト

スーパーバイザ **connect module** コマンドを使用して特定のモジュール コンソールに接続すると、そのコンソールで次のコマンドを使用できます。**connect module** コマンドの詳細については、[connect module](#)を参照してください。

このシェルでは、ファイルのコピー、ファブリック インターコネクトの再起動、ping および traceroute コマンドの実行など、ファブリック インターコネクトで操作を実行できます。



(注) モジュール コマンド シェルに接続すると、コマンドラインプロンプトがデフォルトプロンプトから変更されます。Firepower-module*n* というアプライアンスに割り当てた名前です。この場合、*n* は接続先のモジュール番号です。次の例を参照してください。

例

次の例では、Telnet を使用してモジュール 1 に接続し、利用可能なコマンドを表示する方法を示します。

```
firepower# connect module 1 telnet
Type exit or Ctrl-] followed by . to quit.
Firepower-module1>?
secure-login      => Enable blade secure login
show              => Display system information. Enter show ? for options
config            => Configure the system. Enter config ? for options
terminalLength   => Terminal settings. Enter terminal ? for options
ping              => Ping a host to check reachability
nslookup          => Look up an IP address or host name with the DNS servers
traceroute        => Trace the route to a remote host
connect           => Connect to specific csp console (asa, etc)
support           => System file operations
testcrashinfo    => Test crashinfo support
exit              => Exit the session
help              => Get help on command syntax
Firepower-module1> <Ctrl-], .>
firepower#
```

表 8: モジュール コンソールで利用可能なコマンド

コマンド	その他の情報
secure-login	ブレードセキュア ログインを有効にします

コマンド	その他の情報
show	<p>システム情報の表示オプションに show ? と入力します</p> <p>diskusage : 現在のディスク容量の使用率を表示します</p> <p>time : 現在のシステムの日付と時刻を表示します</p> <p>faults : 該当する場合はセキュリティ モジュールの障害を表示します</p> <p>memoryusage : システム メモリの使用率を表示します</p> <p>cpuinfo : システムの CPU 情報を表示します</p> <p>users : ログオンしているユーザおよびユーザの操作を表示します</p> <p>uptime : システム稼働時間を表示します</p> <p>slot : このブレードを接続する SSP のスロット番号を表示します</p> <p>processes : すべてのシステムのプロセスを表示します</p> <p>hosts : ホストを表示します</p> <p>route : 設定済みルートを表示します</p> <p>interfaces : 現在設定されているインターフェイスを表示します</p> <p>version : 製品バージョンを表示します</p> <p>netstat : ネットワーク接続を表示します</p> <p>vnicmap : イーサネット インターフェイスで VNIC を表示します</p> <p>platform : なし</p> <p>memory : メモリ モニタ設定を表示します</p> <p>disk : ディスク モニタ設定を表示します</p> <p>cpu : CPU モニタ設定を表示します</p> <p>ntp : NTP 時刻同期情報を表示します</p> <p>coredump : コアダンプ設定を表示します</p> <p>maxRestart : maxRestart を表示します</p> <p>turboBoost : turboBoost 設定を表示します</p> <p>services : サービスのステータスを表示します</p> <p>process : プロセス詳細を表示します</p> <p>cgroups : cgroup を表示します</p> <p>tech-support : トラブルシューティング用にシステム情報報告を生成します</p>

コマンド	その他の情報
config	<p>システムを設定します。オプションに <code>config?</code> と入力します</p> <p><code>vnic</code> : 指定された VNIC を設定します</p> <p><code>memory</code> : : メモリ モニタを設定します</p> <p><code>disk</code> : ディスク モニタを設定します</p> <p><code>process</code> : プロセス CPU モニタを設定します</p> <p><code>maxRestart</code> : 最大再起動 CSP を設定します。0 は機能を無効にします。デフォルトは 8 です</p> <p><code>restartTimeInter</code> : サーバがこの間隔で <code>maxRestart</code> の回数再起動した場合に、すべての CSP が起動しないようにする時間 (秒単位) を設定します。デフォルトは 1200 です</p> <p><code>restartCounters</code> : <code>restart_count</code> をリセットします</p> <p><code>coredump</code> : <code>coredump {...}</code> を設定します</p> <p><code>turboBoost</code> : <code>turboBoost {...}</code> を設定します</p>
terminalLength	<p>端末設定。オプションに <code>terminal?</code> と入力します</p> <p><code>enable</code> : 端末長を有効にします</p> <p><code>disable</code> : : 端末長を無効にします</p>
ping	<p>ホストに Ping を実行して到達可能性を確認します</p> <p>ホスト</p>
nslookup	<p>DNS サーバで IP アドレスまたはホスト名を検索します</p> <p>ホスト</p>
tracert	<p>リモート ホストへのルートを追跡します</p> <p>ホスト</p>
connect	<p>特定の csp コンソール (asa など) に接続します</p> <p><i>appname apphost</i></p>

コマンド	その他の情報
support	<p>システム ファイルの操作</p> <ul style="list-style-type: none"> platform : プラットフォームの運用 fileupload : アーカイブ ファイルを MIO にコピーします diagnostic : 診断アーカイブ ファイルを作成します filelist : システム ディレクトリ内の既存のファイルをリストします fileview : システム内のファイルを表示します filetail : システム内のファイルの末尾を表示します deleteBootImage : ブート イメージを削除します certdownload : リモート syslog サーバから証明書をダウンロードします verify : イメージを検証します generate : generate {command..} をサポートします tunnel : : tunnel {command..} をサポートします dplug-access : dplug アクセスを有効にします send_diag_archiv : デフォルト アーカイブを MIO にアップロードします send_logs : 選択したファイルを MIO にアップロードします
testcrashinfo	<p>crashinfo サポートをテストします</p> <ul style="list-style-type: none"> singleprocess : 単一プロセスで crashinfo サポートをテストします multiprocess : 複数のプロセスで crashinfo サポートをテストします multithread : 複数のスレッドで crashinfo サポートをテストします
help	コマンド構文のヘルプを取得します

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。